



上町 齊藤 旭さん

「空を飛ぶようになって、もう十年になります」と話す齊藤さんは、ジャイロコプター
の愛好者の一人です。
ジャイロコプターは、広大な土地を生かしアメリカで生まれまし

飛んでるときが最高

た。日本へ上陸してから十年ぐら
いになります。齊藤さんが始めた
ころは、全国で二十人ぐらいたっ
た愛好者が、その後急速に広がり、

「部品はすべて輸入品で、自分で作りあげていきます。ヘリコプターを小さくしたものだと思っ
ている方が多いと思いますが、ヘリコプターとは、まったく違うんですよ」と話す齊藤さん。今は、新しいジャイロコプターの製作にとりかかっているそうです。
「空を飛んでいる時は、他の事など考える余裕などありません。自分の作ったジャイロコプターに体をまかせて、夢中で飛んでいる時が最高ですね」と話しを結んでくれました。

4 農春まっしぐら



農家とお聞きしまし
たが？
田畑で二町歩ちよっ
と、それに、養鰻が一
町歩ぐらいます。両親と私です。
鰻の養殖もなさっているよう
ですがどうですか？
むずかしいですね。
昨年、県の養鰻組合の
主催で四国の方へ視察
へ行ったりしたんです
が、これからの養鰻経
営は大変ですね。
笑顔で話す小野さん
一日の仕事は、鰻にエ
サをやることで始まる
そうです。
休みのときは、どうお過
しですか？

レコードを聞いたり、推理小説
を読んだり、友だちと出かけた
りしています。普通の人と変わ
りないですね。
高校のときは棋道部に席を
おき、活躍したという小野さ
ん。将来の生活設計もしっか
りしているようです。
「田畑、それに養鰻をやっ
ていますので、両親の後をつ
いで、一步一步着実に進んで
いきたいと思っています」
小野秀明さん、二十一歳、
ただ今、青春まっしぐらノ
このコーナーに登場する方を募
集しています。広報係までどうぞ。

一步一步着実に！ 小野秀明さん（立会）

足下の三猿が、わずかにわかるだ
けです。二基目には、寛政十二庚
申年正月吉日（一八〇〇）願主新
堀村中と刻まれ、四方に開いた臂
は、四臂とも透かし彫りになっ
ています。三基目は、奉郷中安全、
新堀村中、安政七庚申年二月吉日
（一八六〇）と刻まれています。
四基目は、主尊の姿が一番鮮明
で、天明三癸卯（みずのと・うー
七八三）村中とだけ刻まれていま
す。一番大きい五基目は、主尊の多
くが中央で合掌している六臂のう
ちの一対が、片方は剣を持ち、も
う一方が獣を下げています。脚の
両側には、鶏か鳩のような鳥が遊
んでいます。寛延二己巳九月（つ
ちのとみー一七四九）に建立、願
主は伊藤姓の四名が刻ま
れています。台座の三猿
は、おのおの丸く穿つた
中に刻まれて、妙に信仰
的なものを感じさせてい
ます。天蓋を付けた六基
目は、安政七年三月吉祥
日、伊藤氏とだけ刻まれ
ています。
建立年代も一貫性を欠
いており、安政七
年のものが二基もありま
す。また願主も、村中と
か個人とか、まちまちで
すので、昔は別々に建っ
ていたものと思われま
す。ただ、五基目の庚申様の

図柄が、中台の大宮神社の前に建
っているものと類似していること
や、左端の二基の願主が共に伊藤
姓であることから考えますと、こ
の二基だけは昔からここに建っ
ていた、のではないかと思います。
秋山さん（七十六歳）というお
婆さんから「新島で生まれたが、
物心が付いたころから庚申様はお
宮の前に建っていた」と伺いまし
た。コンクリートは、集めてきた
ためではなく、鳥居を修理したと
き、庚申様の散乱を防ぐために補
強したようです。（本稿取材にあ
たり、前述の方がたのほか、林一
郎さんのご協力をいただきました。
横芝町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿



▲台座の下をコンクリートで固められた六基の庚申様